

平成29年度 日本航空協会表彰と「空の日」・「空の旬間」事業

—松尾氏、渡辺氏「航空功績賞」を受賞—

「空の日」・「空の旬間」には、毎年各種行事が展開されているが、このひとつとして（一財）日本航空協会会長から、我が国の航空の発展に尽力した航空功労者に対する表彰が行われている。

当工業会は、日本航空協会の「航空関係者表彰」推薦団体となっており、会員企業から表彰候補者を推薦した結果、「航空功績賞」2名の受賞通知を受けた。ここに、この素晴らしい栄誉をたたえるとともに、ご功績の一端をご紹介します。

1. 日本航空協会 航空関係者表彰

航空功績賞

「航空功績賞」は、航空に関する文化、科学技術および事業等の発展に著しく寄与された方またはグループに贈られる賞である。

(1) 松尾 則久 氏

松尾氏は、昭和45年、富士重工業(株)（現(株)SUBARU）に入社後、同社取締役 兼 専務執行役員 航空宇宙カンパニープレジデント、同社顧問 兼 民間航空機(株) 代表取締役社長を務めるなど、一貫して航空宇宙関係の業務に従事した。

この間、ボーイング787国際共同開発において事業構想段階からボーイング社との協議に参加し、複合材を多く採用するなどの革新的な取り組みに伴い日本の責任が高まる中、わが国機体メーカー代表の一員として強いリーダーシップを発揮し、ボーイング767や777の日本開発製造分担を上回る規模での日本企業の参画を実現した。

ボーイング787は、幾多の技術課題に加え、開発スケジュールを含めたボーイング社の要求に業界全体として迅速に対応するべく、我



松尾 則久 氏
元 (株)SUBARU 取締役 兼 専務執行役員
航空宇宙カンパニー プレジデント、
元 民間航空機(株) 代表取締役社長

が国のエアライン、材料・部品メーカー、航空機メーカーが一丸となった体制で推進するとともに、日本の参加企業全体の量産体制構築に尽力した。本プロジェクトの成果は我が国の航空機産業の一層の発展と国際的地位向上に貢献した。

オールジャパンの活動として、平成21～25年まで民間航空機(株)代表取締役社長として、ボーイング787、777などの日本国内における量産事業を取りまとめ、推進した。また将来

の人材育成を図るべく、講演会などを通して航空宇宙産業の底上げに貢献した。

(2) 渡辺 康之 氏



渡辺 康之 氏
元 (株)IHI代表取締役副社長 兼 副社長執行役員

渡辺氏は、昭和46年に石川島播磨重工業(株)(現(株)IHI)に入社後、同社代表取締役副社長兼 副社長執行役員を務めるなど、一貫して航空宇宙関係の業務に従事した。

民間機用エンジン分野では、米国IAE社、GE社等との国際共同開発を推進し、型式承認取得・量産化を成功させた。具体的には、V2500エンジンの改良型「Select One」、ボーイング777用のGE90-115B、787用のGEnx-1B、小型リージョナル機用のCF34-10Eが挙げられ、小型から中型、大型、超大型まで民間旅客機のすべての領域におけるエンジン事業への我が国の参画を実現し、事業の拡大と安定化を図るとともに、世界の航空エンジン業界における我が国の地位を大きく向上させた。

航空エンジンに関する科学技術分野では、NEDO(国立研究開発法人新エネルギー産業・技術総合開発機構)の大型技術開発プロジェクト「超音速輸送機用推進システム研究開発

(HYPRプロジェクト)」、「環境適応型小型航空機用エンジン研究開発」に主導的立場で携わった。我が国航空機エンジン技術力の向上、世界における我が国の航空機エンジン事業の成長、地位向上に貢献した。

産業界における活動として、平成21～22年に経済産業省産業構造審議会臨時委員を務め、平成21～23年に(一財)日本航空機エンジン協会理事長を歴任した。また、平成22～23年に日本ガスタービン学会会長を務めるなど、我が国の航空宇宙産業の発展とガスタービンに関する工学と技術の向上に貢献した。

2. 平成29年度「空の日」・「空の旬間」事業概要

(1) 空の日記念式典

第65回「空の日」航空関係功労者国土交通大臣表彰式

9月20日(水) 予定 於：国土交通省 共用大会議室

(2) 広報活動

ポスター、ホームページ、グッズ製作、「くにもる」着ぐるみの活用などにより、空の日のPRを行う。

(3) 中学生派遣事業

成田地区6名の中学生を対象として、7月24日～29日に米国シアトル ボーイング・エバレット工場等の航空関連施設見学、フェニックスJAL運航乗員訓練所見学、現地高校生との交流会等を実施。

(4) 絵画コンテストの支援

「FAIヤング・アーティスト・コンテスト(主催：FAI(国際航空連盟))」の国内予選である「青少年航空宇宙絵画国際コンテスト」の費用の一部を支援する。

(5) 地方イベントへの支援

全国の空港等で開催される空の日イベントに対して事業費の一部を支援する。

(6) 啓蒙事業の支援

①航空分野に関心を持つ若者が増加するよう協賛団体が行う青少年等を対象とした航空教室等の事業費の一部を支援する。

②航空スポーツ分野の安全に関する講演会、講習会等の取り組みに対して事業費支援を行う。

(7) その他

①関東近郊の中学生10名を対象とし、ANA 訓練センター、JALメンテナンスセンター等の羽田空港周辺航空関連施設見学を実施する。

②空の日ネットと相互リンクしている「skyworks」(*)（航空機操縦士養成連絡協議会および航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会が航空に関する仕事の魅力を伝えるために開設した共通ウェブサイト）を通して若年層へ航空職種を紹介する。

(*) 当工業会は日本航空機操縦士協会、日本航空機技術協会と連携をとり、将来の航空関係人材確保・育成に向けて、若年層への航空職種の紹介に努めております。「skyworks」は当工業会ホームページともリンクしておりアクセスが可能です。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 広報部長 高木 伸吾〕